



【学校教育目標】

生気に満ちた姿勢で
物事にあたり
互いに励まし高め合う生徒

令和7年6月30日(月)

発行者:校長 和田秀治

「努力の壺」^{つぼ}～努力と成長～

上美生中学校 校長 和田秀治

生徒の様子を見ていると勉強をはじめ、様々な場面で一生懸命頑張っている姿が多く見られます。とても素晴らしいことです。ただ、人によっては努力をしているのだけれど結果がともなわずに悩んでいる人もいるようなので、1学期の中間試験が終わったあとに、皆様にお伝えしたいと思い紹介することにしました。少しでも参考になればと考えています。

人が何か始めようとか、今までできなかったことをやろうと思った時、＜努力の壺＞があらわれるようです。その壺は人によって、大きいものや小さいものなど色々あります。そしてその壺はその人には見えないのです。でも、その人が壺の中に一生懸命「努力」を入れていくとそれは少しずつたまり、いつか「努力」があふれる時に、壺の大きさが分かるというのです。

だから、休まずに壺の中に努力を入れていけば、いつか必ず成長できる時がくるのです。

例えば、その壺に「毎日60分以上家庭学習する」と書いて貼ります。この札が【目標】です。その壺に一回実行するたびにコップ一杯の水を入れます。つまりこのコップ一杯の水【努力】なのです。最初のうちは水を入れても、壺の中の水が増えた気配すら感じません。どれくらい水がたまっただろうかと見たくても、うかがい知ることはできません。人間には弱い心があるので、「どんなに頑張っても進歩がない」「無駄なことだ」と自分自身の努力に疑問を持ち、コップに水を入れることをやめてしまうこともあります。ここがふんばり所です。それでも頑張ってみます。ある時、水を入れると「ポチャン！」と音がして、音が変わってきたことに気づきます。確かに水がたまっていると知ることができるので、水を入れることが楽しくなります。今までは、一杯の水を入れるのがやっとだったのに、「たまってきている」と実感できたことで、二杯分、三杯分の努力を惜しみなくできるようになります。やがて、水があふれだし【目標】が達成できた時がきます。この時初めて「努力を続けることの大切さ」を知ることができるのです。



LAドジャースの大谷選手(野球)やシカゴ・ブルズのマイケル・ジョーダン選手(バスケット)もひたすら努力し続けた結果だと述べています。他にもゴッホ、エジソンなど多数の方が「継続は力なり」と言っており、継続それ自体によって自信が得られるとイチロー選手も教えてくれています。

7月行事予定

日	行事予定	日	行事予定
1(火)	先手あいさつ運動 前期生徒会活動日	17(木)	
2(水)		18(金)	めむろまるごと給食 校内研修
3(木)	職員会議	19(土)	
4(金)		20(日)	道卓球選手権予選大会ダブルス
5(土)	全十勝夏季テニス(個)、バド(団)、卓球(個) 少年の主張十勝地区大会	21(月)	十勝管内 PTA 研究大会更別大会 海の日 道卓球選手権予選大会ダブルス
6(日)	全十勝夏季テニス(団)、バド(個)、卓球(団)、バスケ	22(火)	1学期終業式、職員会議
7(月)	やまなみ交流	23(水)	夏季休業開始・8/21迄
8(火)	帯広大谷高校インターンシップ1日目	24(木)	
9(水)	帯広大谷高校インターンシップ2日目	25(金)	
10(木)	第2回授業参観日	26(土)	
11(金)	芽室町教育委員学校訪問	27(日)	
12(土)	全十勝夏季バスケ	28(月)	
13(日)	全十勝夏季バスケ	29(火)	
14(月)		30(水)	
15(火)		31(木)	
16(水)			



◇いじめアンケート結果について◇

6月3日に「いじめ調査」を実施しました。年2回ある調査となっており、安全・安心な学校生活を送るための大切な調査となっております。結果については、「冷やかしかからかい、嫌なことを言われる」というケースが2件ありました。いずれもすぐに聞き取り調査を行い、本人や関係する生徒に指導・支援を行いました。教育委員会にはこれら全てについて報告しています。

今後も注意深く様子を観察し、状況に応じてすぐに対応するよう確認しています。いじめの指導の重点はあらためて以下の通りです。

- ・悪意、好意を問わず全ての言動はいじめの可能性はあるということ
- ・しかし、すべての言動をいじめと感じてしまうような心の働きは健全ではないこと
- ・いじめかどうかを決めるのは加害者ではないこと
- ・受け止め方や心の働かせ方を改善する指導を行うこと（道徳等）
- ・「ふざけただけです」は通用しない、させない
- ・「いじめの加害者」になると大きな代償を背負うこと

*これらの諸点について繰り返し意図的に指導し、生徒に理解させていきます。

令和7年度 上美生中学校“働き方改革”の取組について

- 1 目的 教員自身がこれまでの働き方を見直し、子どもたちと向き合う時間や自らの学びを深めるための時間を確保することで、「質の高い学び」と「持続可能な学校」の実現につながる取り組みを進めます。
- 2 時間外勤務について
在校等時間一所定の勤務時間 = 1ヶ月で45時間以内を目指します。
- 3 具体的な取組

①改革を自分事に・・・ワークライフバランスを意識した働き方を追求し、教職員のウェルビーイングの向上と、子どもたちの学びの伸長を目指します。

本校の取組として

- 一ヶ月の働き方を見通す→個人定時退勤日の設定 目標 1ヶ月2回
- 一斉定時退勤日の設定（テスト前、会議日等） 目標 1ヶ月3回
- 部活動時間を見直す→週平均11時間（平日4日2時間、休日1日3時間）

②自走するチームづくり・・・未来につながる教育活動の実現を目指し、対話を通して、学び合い・支え合うチームづくりを目指します。

本校の取組として

- 学年・分掌部会・職員会議等による対話
学年部会・分掌部会にて協議→コアチーム(校務運営委員会)を活用します。
→職員会議にて協議→業務改善を図ります。
目標 1ヶ月毎の学年・分掌会議で協議
- 部活動指導の分担→月初め等にお互いの定時退勤日等予定を先に伝え合い、担当する日を分担して指導にあたります。

③地域との協働・・・コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進を図り、地域・保護者・教職員の参画と熟議でバランスある分担の実現を目指します。

本校の取組として

- 保護者懇談会、部活動後援会総会、学校運営協議会にて説明
(1)趣旨 (2)定時退勤日 (3)部活動休養日設定 (4)顧問のローテーション休暇等
・学校だより等により取組を伝え、取組の周知を図ります。目標 1年2回（前後期実施）

4 その他の取組として

- 定時退勤日の意識化・実質化を行います。（職員室全体で共有）
- 会議の終了時刻を周知し、効率的に行います。（会議の効率化）
- ICT・校務支援システム等を有効に活用します。（業務の効率化）

※学校における働き方改革北海道アクション・プラン（第3期）を参考に、上美生中学校バージョンとなっております。ご理解とご協力をお願いいたします。

6月19日（木）、芽室町地域おこし協力隊員 丸岡 悟様のご協力により中学生と小学校5・6年生が一緒になって、中学校で記録会をしました。お互いに励まし、声を掛け合いました。6年生にとっては、来年度の入学に向けての中学生とふれ合う貴重な機会となりました。

新体力テスト
合同記録会



3年家庭科「赤ちゃんふれあい体験」を行いました

家庭科「家族・家庭生活」の学習の一環として、芽室町役場子育て支援課の皆様のご協力を得て、乳幼児と直接かかわる体験型の学習「赤ちゃんふれあい体験」を行いました。この学習を通じて乳幼児への理解を深め、自分がどのように育てられてきたのかを振り返る機会となりました。赤ちゃんともふれあうことで命の温かさに気づき、お母さん達の話をつうことで子育ての大変さと赤ちゃんへの愛情を知ることができました。ご来校いただいた2名の親子の皆様ありがとうございました。



トレーシー市中学生交流訪問、みんなで Communication (๕๕)

6月16日(月)5・6校時に、芽室町の姉妹都市であるアメリカ・トレーシー市の中学生が本校に来校し、交流しました。5時間目は、生徒全員で日本文化の紹介、英語&日本語で伝言ゲームとフルーツバスケットで交流しました。6時間目は、3年生一人一人がマンツーマンで筆ペンを使って自分の名前をカタカナで書けるようにお手伝いし、一人一人オリジナルの扇子を作りました。



伝言ゲーム



フルーツバスケット



全体交流会

筆ペンによる扇子づくり

